

教育委員会会議 令和4年12月定例会 会議録

1. 開 会

市民憲章唱和

2. 教育長あいさつ

3. 会議録の署名者の件について

4. 前回会議録の承認

全員賛成

5. 教育長等の報告

なし

6. 議事

(1) 議案

①令和4年度末 津山市立小中学校教職員人事異動方針（案）について（学校教育課）

概要説明（資料 6-1-1）

令和4年度末津山市立小中学校における人事異動は、岡山県教育委員会が示す「令和4年度末校長・教職員人事異動要項」、「岡山県公立小・中学校教職員長期人事異動の基準」、「岡山県公立小・中学校・特別支援学校教職員長期人事異動の基準（教職員の生涯計画）」等を踏まえて、学校組織力と教職員の資質能力・指導力の向上を図るために、校長との緊密な連携のもと、計画的に行うものです。基本方針は大きく3つあります。1つ目は、津山市「元気スマイルプラン」を踏まえた学校教育力の向上と教職員の資質能力・指導力の向上を図ることです。昨年度までは学校教育力と明記していました。本市が目指す津山市「元気スマイルプラン」には、教科担任制や学年担任制、津山郷土学の推進が挙げられています。2つ目は、魅力ある学校づくりをめざす全市的な視野に立ち、組織力強化のための教職員構成の適正化に努め、教育水準の向上を図ることです。津山市の今後の学校のあり方に関して、魅力ある学校づくりとしてつながり学び合う学校づくり、小中連携による学校づくり、地域とともにある学校づくりの3つの視点を挙げています。3つ目は、校長会との連携を図りながら、津山市教育委員会の自主性を堅持し、厳正公平を旨とすることです。努力事項については、津山市第5次総合計画及び第3期津山市教育振興基本計画に基づき、各学校の実情を考慮しながら人事異動を行います。学力向上、不登校対策等の学校課題の解決を最優先とし、適材を適所に配置します。働き方改革を推進します。また、人材育成を行っていくとともに、新採用職員の積極的な配置に努めます。キャリアステージごとに求められる資質能力の向上を図る研修の実施や、再任用教職員の適正な配置に力を入れていきます。校長がリーダーシップを発揮する特色ある学校づくりを支援するため、加配等の効果的な配置に努めます。令和6年度から全市的に始まるコミュニティ・スクールなどを見据えた人事配置に努めます。

②今後の津山市立小中学校の体制整備に関する基本方針（案）について（学校教育課）

概要説明（資料 6-1-2）

人口減少、少子化に伴い過小規模化する学校への対応を目的として有識者会議である「津山市小中学校の将来構想検討委員会」を設置し、同委員会から「津山市小中学校の将来構想について（提言書）」の提出を受けました。提言を受けて本市が目指す教育について検討し、つながり学び合う学校づくり、小中連携による学校づくり、地域とともにある学校づくりの3つを基本とした魅力ある学校づくりを目指すことが求められるとしております。体制整備の検討を行う要件案としては次の2点の場合としております。1点目は、児童生徒数の減少に伴い、過小規模校（複式学級）となった場合、または、5か年間の将来推計から、過小規模校（複式学級）となることが想定される場合です。2点目は、学校の現況規模に関わらず、教育課題の解決に小中一貫教育を推進することが有効であると判断される場合、または、保護者等から、小中一貫教育による魅力ある学校づくりを進める要望がある場合です。過小規模校（複式学級）に係る体制整備の方策は、中学校と複数の小学校の義務教育学校化、中学校と複数の小学校の小中一貫型小学校・中学校化、近隣小学校同士の統合の3つを挙げています。小中一貫教育の実施を目指す学校への方策としては、中学校と単独または複数の小学校との義

務教育化、中学校と単独または複数の小学校との小中一貫型小学校・中学校化の2つを挙げています。体制整備の方策を決定するにあたっては、保護者や地域の関係者に丁寧に説明するとともに意見を聴取するなど、十分な理解を得ながら検討を進めていくこととしております。本日の教育員会にて方針案をご承認いただきました後、1月中旬にパブリックコメントを開始する予定です。2月中旬にはパブリックコメントの結果を集計し、3月下旬の教育委員会にて基本方針の決定を行いたいと考えております。

③津山市教育相談センター鶴山塾運営委員会の委嘱及び解嘱について（次世代育成課）

概要説明（資料6-1-3）

津山市教育相談センター鶴山塾運営委員会規則第3条及び第4条の規定に基づき、津山市教育相談センター鶴山塾運営委員会委員を次のとおり委嘱及び解嘱します。委嘱及び解嘱の理由は、選出団体内の役職交代です。委嘱日は令和5年1月1日で、委嘱期間は前任者の残任期間である令和5年1月1日から令和6年5月31日までです。委嘱者は1名で、津山青年会議所選出の藤井克己氏です。解嘱者について、解嘱日は令和4年12月31日です。

(2) 報告

①令和4年度12月定例議会の質問答弁について（教育総務課、こども保育課）

概要説明（資料6-2-1）

津山市議会12月定例会が開催され、12月5日から12月9日まで一般質問がありました。資料では質問答弁の要旨について掲載しています。12月5日は高橋議員からご質問をいただきました。不登校特例校や小中学校の将来構想に係る提言書についての質問がありました。不登校特例校に関する質問に対しては、重要な施策であると認識し、設置に向けて検討を始めているところであると回答しています。将来構想に関する質問に対しては、パブリックコメントを実施し、本年度末を目途に最終的な方針を策定する予定であると回答しています。12月6日は原議員、竹内議員からご質問をいただきました。原議員からは学校現場における新型コロナウイルス感染症ワクチン接種についての質問があり、チラシ配布やホームページなどにおける啓発活動を行っている旨を回答しています。竹内議員からは環境に関する教育の取組について質問がありました。9月の校長会議にて民間事業者を招いたプラスチックに係る資源循環をテーマにした研修を行いました。12月7日には広谷議員、河村議員、美見議員からご質問をいただきました。広谷議員からは多目的トイレや、女子トイレにおける生理用品配備についての質問がありました。多目的トイレについては、全ての学校に校舎内に設置していますが体育館についてはまだ設置ができていない学校もあります。生理用品の配布については、貧困を理由とした相談はありませんでした。急な体調変化に対応ができるといった意見があったことをご報告しています。河村議員からは久米地区小中学校の将来構想についての質問がありました。久米地域に関わらず、学校や保護者、地域住民の皆様の意見を聞きながら丁寧に検討すべき事案であると回答しています。また、部活動の地域移行に関する質問がありました。現在、行政内部で検討会議を立ち上げ、様々な意見交換を行っています。美見議員からは奨学金についての質問があり、担当課で対応していく旨を回答しています。12月8日には村上議員、秋久議員からご質問をいただきました。村上議員からは学校の石碑の危機管理についての質問があり、危険物の除去、修繕、危険個所の明示、立入禁止など適切な措置を講じている旨を回答しました。秋久議員からはバリアフリーについての質問があり、これまでも機会を活用して施設改修を行った旨を回答しました。12月9日には三浦議員、中村議員よりご質問をいただきました。三浦議員からは校則の見直しに関する質問がありました。勝北中学校、久米中学校では生徒の提言から制服の見直しの協議を実施し、令和5年度から新制服に変わることや、鶴山中学校ではPTAと生徒代表が校則の見直しについて検討会議を実施する旨を回答しました。中村議員からは不登校に関する質問があり、本市での対応について回答しました。

こども保健部関係については12月9日に政岡議員、金田議員よりご質問をいただきました。政岡議員からは公立幼稚園の定員についての質問がありました。当年度における3歳児人口と2歳児人口を比較した際の減少率や関係機関との調整により定員減少に至った旨を回答しました。10月1日にHPで示された募集定員が10月17日に3名減となったことについては、調整や告示の関係によるものであると報告しています。金田議員からは公立・私立の幼稚園・保育園等の受け入れ体制について質問があり、定員および受け入れ状況について回答しています。希望が集中する園があり必ずしも希望どおりに入園ができない場合があることや年度途中での入園についてもご報告しています。

②教育委員会委員の任命について（教育総務課）

概要説明（資料 6-2-2）

開会時の教育長挨拶等で説明がありましたとおり、光岡教育委員の再任についてご報告するものです

7. その他

(1)各課からのお知らせ

①給食だよりについて（保健給食課）

今月のイチオシ給食レシピは、冬至献立から「カボチャのけんちん汁」を紹介しています。その下には、冬至とかお正月など、季節ごとの行事やお祝いの日食べる特別な料理「行事食」の紹介をしています。右側には、「おやつ（間食）のとりかたを考えよう」と題し、複数回にわたって掲載予定です。今月は「おやつを目安量」をのせています。その下は、リクエスト給食の紹介です。センターごとに載せています。

2学期の給食も、戸島学校食育センターは12月21日、草加部学校食育センターは12月22日に無事終了しました。3学期は、1月10日から給食再開予定です。

②津山市教育委員会通信1月号について（学校教育課）

津山市教育委員会通信1月号を発行します。表面には教育長より新年のご挨拶を掲載しています。その下には、三津同盟による学校間交流についての記事を掲載しています。裏面上部には生徒指導要が12年ぶりに改訂されたことに伴って、改定の背景や目的について記載しています。改定のポイントでは校則の運用・見直しについて書かれています。全ての市内小中学校が昨年度及び今年度で校則の見直しを実施しています。そのうち勝北中学校、久米中学校では制服の見直しが実施され、令和5年度からは男女の区別なく着ることができるブレザータイプの新制服を導入します。その下にはICT活用推進員による県外視察についての記事を掲載しています。12月9日に国立大学法人東京学芸大学附属竹早小中学校において、ICT活用の視察を行いました。

③三津同盟締結による教育分野での交流について（学校教育課）

本市と大分県中津市、島根県津和野町はともに優れた蘭学者、洋学者を輩出した歴史的な背景を重んじて相互に連携協力を深め、共通のアイデンティティである蘭学・洋学の積極的なプロモーションとして『蘭学・洋学三津同盟』を締結しています。三津同盟締結を踏まえ、教育分野において郷土の歴史等について、学校間交流を行い、お互いの郷土に誇りと愛着（郷土愛）を持つ子どもたちを育成します。12月6日に林田小学校6年生と中津市立北部小学校6年生、12月8日に鶴山小学校6年生と津和野町立津和野小学校6年生がそれぞれオンラインで交流を行いました。12月6日の交流では、中津市立北部小学校からは日本三大水城である中津城、日本遺産の耶摩溪といった観光スポット、名物である唐揚げなどについて紹介がありました。また、『西洋事情』や『学問のすゝめ』などを執筆し慶応義塾を創設した福沢諭吉、解体新書の翻訳を行った中津藩医・前野良沢の業績についての紹介がありました。林田小学校からは、津山城、津山まなびの鉄道館、ホルモンうどんなどについての説明がありました。また、ペリー来航時にアメリカ大統領の親書を翻訳し、日本初の大学教授となった箕作阮甫や、国内初の植物学書や化学書を著し、「酸素」、「細胞」、「繊維」などの用語を考えた宇田川榕庵の業績等についての説明がありました。12月8日の交流では鶴山小学校と津和野町立津和野小学校がそれぞれ学校や学級の様子などについて説明しました。両日とも子どもたち同士の素朴な交流を行いました。12月8日の交流会の終わりの挨拶では、鶴山小学校の代表児童が「色々勉強になりましたが、その中でも津和野小学校の校歌が一番心に残りました。私も校歌を大切にしていきたいです。」と述べていました。自分の市との共通点、異なる点を感じ、郷土への理解を一層深めるような交流ができたことを嬉しく思います。鶴山小学校については令和5年2月9日に郷土学習の相互紹介を予定しています。

④「こころの子育てフォーラム」アンケート結果について（次世代育成課）

令和4年11月19日に津山東公民館にて、津山市教育相談センター鶴山塾主催の「こころの子育てフォーラム」が開催されました。その際に実施した参加者アンケートの集計結果についてご報告します。40名定員のうち、参加者は27名で、アンケートの回答率は96%でした。満足度については、大変満足が73%、やや満足が27%の計100%でした。開催を知った方法については、学校や保育所、園に配布したチラシが73%でした。子供の年齢については、小学生が36%、中学生が28%、未就学児が22%でした。今後の講演内容については心の心理が22%と一番多い結果となりました。次いでインタ

ーネットの利用、生活習慣とその他という結果になりました。その他では、子どもの食育、コミュニケーション能力の高め方などといった意見をいただきました。裏面には満足度の理由として記述していただいたものを抜粋して掲載しています。自分の価値観を「すべき」から「まあいいか」へ広げていくことや睡眠の重要性、怒りの持続時間など、お話しいただいた内容を今後の生活や家庭へ活かしていきたいという感想をいただきました。

⑤「こころのふれあいトーク」アンケート結果について（次世代育成課）

12月3日にグリーンヒルズ津山リージョンセンターにて、津山っ子を守り育てる市民の会主催の「こころのふれあいトーク」が開催されました。その際に実施した参加者アンケートの集計結果についてご報告します。県立津山中学校を含む市内9中学校の18名の生徒が参加し、作文意見発表会の後、会場内の参加者との意見交換会を実施しました。参加者は94名で、アンケートの回答率は38%でした。開催を知った方法については、その他の子どもに聞いた、子どもが発表をする、役員、学校関係者等が44%と一番多かったです。子どもに共感できたかについては、大変できるが83%、まあできるが13%と、ほとんどの参加者が共感できたと回答しています。共感の理由については、自分の意見をきちんと持ちそれを人に伝える力がある、質問に対しても悩みながらも返答できていたという回答がありました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、中学生はビデオ録画による参加でした。今回は対面での開催となったところ、参加者からは生の中学生の意見を聞くことができ嬉しかったという感想をいただきました。中学生からでた質問に対して、中学生が回答するなど、普段の学習の成果が出ている場面もありました。

(2) 次回定例会の開催について

教育委員会規則に毎月第4木曜日が定例会開催日となっているが、次回定例会は令和5年1月26日（木）13:30から開催。
全員賛成により決定

(3) その他

①市内中学生の市長報告について

12月21日に、発明工夫の県知事賞を受賞した中学生と、人権作文で表彰をいただいた5名の中学生による市長報告がありました。人権作文で表彰されたうち1名については、最優秀賞を受賞し、東京都で開催される中央大会に推薦されました。同じ自治体から5人も入賞するというのは今までにない快挙です。子供たちの人権意識や、自分の思いを作文にし発表する力が表彰につながったと考えています。学校現場の取組や活動の成果であると考えています。

9. 閉会

(14:34)